

意見整理表

目的:「自分たちのまちは自分たちで創る！」を目標とした、興味・関心のための情報の共有であり、その為の情報発信の方法や情報共有のあり方を提言する

課題:地域での「対話の場」や「学び機会」の創出について ～思いや考えの共有を図るために～

情報の出し手側の留意事項		校区自治協議会等、既存ネットワークの課題や現状	課題解決に必要なこと	具体的な意見や取り組み
提言のまとめ(H26)				
④情報の流れや浸透を意識した情報の発信	校区自治協議会や市民活動団体など、既に存在するネットワークを有効に活用すること。	地域情報を共有して発信して、何かを生み出そうということは、校区自治協議会の本来の役割であり大きな使命。身近にある課題を自分達で解決し、どのようにして乗り越えていくのか、その為にはどのような取り組みをすべきかなど、地域で各種団体が集まり検討し取り組んでいくようなレベルまで成熟していない。	・校区自治協議会の機能を充実する	・校区自治協議会に対し、企画や広報など実践的研修実施 ・校区自治協議会への、企業(地元商栄会等)の参加促進 ・町内会などの集まりに職員が参加し、一緒に議論する
		経済界が地域をつくるということに理解があれば、地域活動は非常に早く上手いと思うが、企業も協力の仕方がわからないし、地域も巻き込み方がわからない。	・企業における社会貢献活動とまちづくり活動を繋ぐ	・社会貢献活動に対する、企業意識の活発化 ・地域活動への参加が、高く評価される人事システム ・校区自治協議会への、企業(地元商栄会等)の参加促進

情報の出し手側の留意事項		学びの機会、対話の場の課題や現状	課題解決(「場」)に必要なこと				具体的な意見や取り組み	
提言のまとめ(H26)			集まりやすい 快適	助言者や役立 つ物の存在	多様な参加者	新しい出会いや 繋がり		
⑤市民の学びの 機会を充実	地域での説明会や出前講座の開催 など、市民の学びの機会を充実さ せ、広報媒体での情報発信との効 果的な組み合わせについて検討す ること。	仕事を持たれる方の多様化で、個々人の都合のよい時間帯 の違いなどを考慮すると、昼間の時間帯が沢山の人が集まる とは一概に言えない。	○		○		・「場」の設定には、開催時間帯への考慮が必要	
		子ども会のイベントで子ども達が楽しめることのみならず、社 会や地域の利益に繋がる行事の企画を検討したことがある。 しかし、地域住民だけでは地域課題をどのように行事へ組み 込んでいけばよいか企画することは困難であった。			○			・町内レベルの会議や催事に入ってきてくれる職員が欲しい
		学生は講義やテストの期間と重なって参加できない。	○			○		・時期や時間への配慮は、学生の参加を促す上でも大事 ・大学の講義と連携して対話の場を創出することを検討
⑥地域での対話 の機会の創出	検討会や懇談会など住民等の対 話・合意形成の場を、できるだけ地 域に創っていくこと。	「対話の場」「学びの機会」で欠けている参加層は「女性」と「若 者」。参加させるための仕掛けが不足。				○		・「若者」については、高校生や中学生まで視点に置く
		「場」というものは、「時間」「空間」「仲間」である。若者が積極 的に参加し主体的に発言したり、子育て中のお母さん方が子 どもを気にせず参加したりすることは、今までの固定化された 「場」では発揮できない。	○			○	○	・新しい出会いや繋がりを創造してゆくことが場作りに繋がる
		市民活動支援センター「あいぽーと」では、相当数のボランティ ア団体の情報を登録している。このような活動の情報について は、一部の市民活動者間では共有されているが、地域団体等 広く周知がされておらず、折角のセンター機能が有効に活用さ れていない。			○		○	・「あいぽーと」は対場の場に成りえる。このような既存施設を 活用してやってみる
		行政が進めようとしていることについて、市民、民間側でも独 自の動きがあっていると思う。そういう動きについて情報を共 有することで、いろいろな取り組みを効率的に進めていけるの ではないか。					○	・公と私の接点となる場を模索
		まちづくりの先輩達が出来なかった取り組みについて、地域で 議論する。地域団体の役員だけでなく、テーマに応じて様々 な方を交え、同じ土俵で何回も議論する。一緒に勉強し、対話 しながら情報を共有し、その上で、色んな企画を進め、まちづくり を実現している。	—	—	—		—	・住民同士の集まりや勉強会も「対話の場」・「学びの機会」で ある